

## 【日本の大学】第5回——九州大学：新キャンパスと新学部

九州大学にとって近年の一大事業は、広大な敷地を持つ新キャンパス（伊都キャンパス）の建設と移転であろう。「時代の変化に応じて自律的に変革し、活力を維持し続ける開かれた大学の構築」、「それにふさわしい研究・教育拠点の創造」をコンセプトに、従来あった箱崎、六本松、原町地区のキャンパスを統合移転して九州の大都市、福岡市の西方にある糸島半島（福岡市西区と糸島市）に、移転開始から13年をかけて2018年9月に移転を完了させた。

伊都キャンパスは、古くから大陸文化を取り入れた「伊都の国」（中国の史書にある倭国内の国の一つ）として歴史のある場所であり、玄界灘に豊かな自然環境に恵まれた丘陵地にある。東西3km、南北2.5kmで敷地面積は272haと、プロ野球「福岡ソフトバンクホークス」の本拠地球場40個分の広さで、単一面積のキャンパスでは日本で最も広大な敷地を誇る。福岡市の中心部からは約15km、公共交通機関で40分ほど離れているが、きれいな海岸線や田園が広がっている。

以下、大学のホームページ（HP）などに沿って歴史や現状を紹介していこう。

九州大学のHPの沿革欄には一番初めに『1867（慶応3）年に「賛生館」』とある。これは当時の福岡藩が医学を教える藩校として設立したもので、学制の施行で廃校となるが、付属の病院は継続し1877（明治10）年に福岡県立福岡医学校附属病院となった。

帝国大学令が1886（明治19）年に公布されると九州にも帝国大学を設置しようとの機運が高まり、1903（明治36）年、福岡医学校を母体に京都帝国大学の分科大学として発足した。

九州帝国大学の設置は資金難から進まなかったが、古河財閥や地元福岡県からの寄付が集まり、1911（明治44）年に九州帝国大学が開設された。同時に九州帝国大学工科大学も併設され、その3か月後には京都帝国大学福岡医科大学も九州帝国大学医科大学となった。

九州大学では、こうした経緯から医学部の創立年は1903年とし、大学の創立年は1911年としている。

初代の総長には、東京帝国大学の総長も務めた山川健次郎氏が就いた。山川氏は日本で初めての理学博士でもある教育者で、「修養が広くなければ完全な士というべからず」という名言を残している。将来、各分野においてリーダーシップを執る責任を果たすためには、専

門の学問を究めるだけでなく、幅広い知見を持つべきである、という主旨であるとされる。

その後戦前は、1919（大正 8）年に医科大学を医学部に、工科大学を工学部にするとともに、農学部を設置、その後法文学部、理学部や温泉治療学研究所、九州文化史研究所などの研究所も開設されている。

戦後は、1947（昭和 22）年に名称を九州大学に改め、1949（昭和 24）年には福岡地区にある福岡高等学校、久留米工業専門学校などを包括して新制九州大学が誕生。法学部、経済学部、教育学部を設置した。また、1953（昭和 28）年には、新制大学院が設置されている。

その後も薬学部、歯学部などの増設があったほか、2003（平成 15）年には九州芸術工科大学（1968 年創立）と統合している。

最近の九大のニュースとしては、伊都キャンパスへの移転とともに、2018 年に「共創学部」を開設したことが挙げられよう。同大学としては約半世紀ぶりの新学部開設であり、設立趣旨について「本学が総力を結集し、複雑化・多様化するグローバル社会において、多様な人々との協働から異なる観点や学問的な知見の融合を図り、共に構想し、連携して新たなものを創造する『共創』をコンセプトとして、新たなイノベーションの創出を担う人材の育成に取り組んでいく」と説明している。

さらに、「急速なグローバル化の中で、環境や食糧、人権、経済的格差など、地域や国を超えた地球規模の人類的な問題が生じている。これらの問題に対する明確な答えはなく、すぐに解決することは困難です。答えのない課題に取り組むためには、まずは自ら能動的に考えて解決策を『構想』していかなければならない。共創とは、『構想』『協働』『経験』というプロセスを繰り返すことで、『課題に応じ自ら必要なことを学ぶ態度や志向性』を養い、『必要となる知識を組み合わせた新たな知』を創造し、それを『実社会の中で』活用していくことを意味している」などと説明。

課題の発見から解決に導くために必要な態度・能力を「能動的学習能力」「課題構想力」「協働実践力」「国際コミュニケーション力」の四つに分類し、これらの態度・能力の涵養を通して「共創的課題解決力」の獲得を目指すとしている。

学ぶ分野も、従来の学問分野の枠組みを超えて「人と社会」「人間・生命」「地球・環境」「国家と地域」の 4 エリア（領域）を設定し、横断的に学ぶことを目指している。

入試制度も個性的で、AO 入試や推薦入試、帰国子女や海外留学生向けの国際型入試などを一般入試とともに組み込んでおり、HP の学部紹介にもトップに共創学部を取り上げてい

る。

現在、学部は12あり、大学院研究組織の研究院が16、大学院教育組織の18学府、専門職大学院4、さらに高等研究院、基幹教育院、そして五つの研究所がある。また、歴史を誇る大学病院は、国内最大級の1415床のベッドを保有する。

学生数は学部学生11600（うち女子3377）名、大学院生6890（同1874）名の合計18490（同5251）名、その内留学生は98の国・地域から2602名に上る。また、教職員は約8000名（教員は約2000名）となっている。また、2000人以上の九大生が海外に留学している（2019年11月現在）。

土地の面積は、五つのキャンパス（伊都、病院、筑紫、大橋、箱崎）、付属農場、四つの演習林などを合わせて約76平方kmで、日本で3番目に広い敷地を持っている。

このうち、最も新しい伊都キャンパスは、新入生全員が最初の1年間を必ず、このキャンパスで過ごすことになっており、大学はここを未来型キャンパスの核として位置付け、将来への決意を込めた「伊都キャンパス宣言」も公表している。

同宣言は、このキャンパスを

1. 世界をリードする人材と新しい科学を生み出す場
2. 未来社会を切り開く研究成果の実証実験の場
3. 歴史や自然など豊かな環境と共生する場

——として、教育、研究、社会貢献、国際交流など多様な活動を大きく推進し、新しい歴史を築いていくとうたっている。

一方、九州大学の発祥の地である箱崎キャンパスは、福岡市とともに歩んできたが2019年に伊都キャンパスへの移転完了後は、福岡市民からの意見募集なども行いながら、跡地の有効利用を図る「跡地利用将来ビジョン」をまとめ、今後有効利用を図っていくことになっている。

リチウムイオン電池の開発などの業績で2019年のノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏（京都大学工学部出身、旭化成名誉フェロー）は現在、九州大学の名誉教授である。

現在の総長は、医学部出身で九州大学病院長を務めた久保千春氏（23代、任期2014年10月～2020年9月）である。

文：滝川 進